

# 洪水後における浮羽及び朝倉兩郡 の二化螟虫の発生状況について

立石 鼎・村田 全・行徳直己・内田信義  
福岡県農業試験場

TATEISHI, I., MURATA, T., GYOTOKU, N. & UOHIDA, N. On the Occurrence  
of Chilo simplex in Asakura- and Ukiha- guns, Fukuoka  
Prefecture, after the Great Flood in 1953.

昭和28年6月25日から27日に亘つて降り続いた豪雨は60年来の大洪水を惹起し、県下各地に甚大な被害を及ぼしたが、なかでも筑後川沿岸の朝倉、浮羽兩郡が最も甚しかった。この時期は兩郡では山間、山麓及び平地の一部旱発地帯を除いて、一般に田植直前であつたので苗代及び耕土の埋没或は流失したものが多く、また用水路の破壊したものが少なくなかつた。従つて水害地の田植は例年より10~20日遅れて7月中、下旬まで植付或は播種が行われた。そこで筆者等は洪水によつて田植様式が従来と全く一変した浮羽、朝倉兩郡において二化螟虫の被害を調査し、栽培様式の変化に伴い浸水地の二化螟虫の発生状況が如何に変化するかを幾分明らかにすることが出来たのでここにその概要を報告する。

## 1. 二化螟虫の発生概況

一化期の発蛾は5月11日の初発後6月第3半旬から発蛾数は急激に増加したのであるが、6月25日から27日の豪雨によつて一時発蛾が抑制され28日の雨明と共に再び多発した。浸水地の稲莖は水害前に屋内に収納されてため殆んど流失したものはなく、浸水地帯においても7月以後の発蛾数は例年に比較して著しく多かつた。水害地における二化螟虫の発生消長は第1表のようである。

第1表 水害地における二化螟虫の発生消長

化期別	調査事項	朝倉郡杷木町	浮羽郡吉井町	朝倉郡安川村
一 化 期	初飛來日	5月12日(-5)	5月11日	5月11日
	最盛期	7月3日(+12)	7月3日	6月18日
	終熄日	7月30日(+12)	7月24日	7月23日
	誘殺総数	2,635(+1,365)	2,569	1,799
	同6月30日迄の誘殺数	1,008(+229)	1,424	1,257
二 化 期	同7月1日以後の誘殺数	1,627(+1,366)	1,017	542
	初飛來日	8月10日(-2)	8月8日	8月7日
	最盛日	8月22日(±10)	8月19日	8月16日
	終熄日	9月19日(-5)	9月23日	9月16日
	誘殺総数	500(+224)	488	1,130

## 2. 水害地における田植進捗状況

水害地の稲作付状況は、被害の程度や苗或は籾種の入手難等によつて異なつている。浸水地では退水直後の6月27日から植付を開始し、兩郡とも7月5日まで90%の植付を終つているが、土の堆積や耕土の流失が甚だしく植付の不能になつた所では、7月に入り直播したものが多く、7月10日までにその90%が播種され、7月20~25日まで播種が行われた。また予備苗を用いたものは、7月20日から植付を始め7月

25日～7月30日まででその70～90%が植付られ8月10日までに植付を終つている。  
従つて7月1日～7月10日頃までに植付を終つた所

は、第二の発蛾の山に遭遇したことになる、両郡における稲植付進捗状況は第2表のようである。

第2表 浮羽、朝倉郡における稲植付進捗状況

郡名	植付直播別	植付進捗状況											計
		月日 6.20	6.25	6.30	7.5	7.10	7.15	7.20	7.25	7.30	8.5	8.10	
浮羽郡	普通苗			562 (18.0)%	2,256.2 (72.0)	183 (5.9)	122 (3.9)						3,123.2
	予備苗							63 (14.7)	187 (43.6)	125 (29.2)	32 (7.4)	218 (21.8)	428.8
朝倉郡	直播			1 (0.2)	411 (76.3)	99 (18.4)	16 (2.9)	12 (2.2)					539.0
	普通苗	122.4 (2.4)	255.5 (5.0)	2,201.4 (42.9)	2,230.5 (43.5)	235 (4.6)				50 (0.9)		35 (0.7)	5,129.8
朝倉郡	予備苗								64.2 (65.1)	30 (30.9)	3 (3.0)		97.2
	直播				213 (35.6)	339 (52.1)	5.0 (7.7)	11 (5.6)					649.5

## 3. 水害地における二化螟虫の被害

豪雨の影響によつて7月に入り多発した螟虫は、7月第3半旬までかなり多く発蛾したので、6月下旬までに植付を終つた無浸水地の被害は最も甚しくそれに較べ退水直後から7月上旬までに植付を終つた浸水地帯の被害はなかつた。特に水害の激甚地で晚播、晚植を行つた所に少かつたのは、植付或は播種時期と7月第1半旬の第二の発蛾の山との時間的ずれによるものであつて、朝倉郡で植付時期と一化期の被害との関係を調べた結果によると6月30日植(無浸水地)の12.7%の被害率に対し、浸水地の7月6日植では11.5%に減少し、7月20日、25日植や7月15日直播したものには被害率は認められなかつた。而し植付時期の遅れたものには、クロミギハエの被害が認められた。

第3表 浸水地と無浸水地における一化期の被害

水害の状況	調査地点	挿秧期	被害率
無浸水地	浮羽郡水繩村	6月22日	25.3%
〃	〃 浮羽町	6.30	17.6
浸水地	〃 田主丸町	6.23	12.4
〃	〃 船越村	6.30	7.4

二化期の被害も一化期と同様で無浸水地の被害率が20～40%の高率であるのに反し浸水地の被害率は0.06～14.1%で著しく少なかつた。

さらに浸水地の被害を栽種時期及び栽種別にみると、移植のものが直播に比較して被害率が多く、また時間的には植付或は播種期の早いもの程被害が多く7月上旬植と7月20日植との間には著しい差が認められる。(第4表参照)

第4表 浸水地と無浸水地における移植並に直播時期と二化螟虫二化期の被害

## (1) 浮羽郡

浸水地						無浸水地			
移植		直播		直播		豪雨前		豪雨後	
挿秧期	被害率	挿秧期	被害率	播種期	被害率	挿秧期	被害率	挿秧期	被害率
月日	%	月日	%	月日	%	月日	%	月日	%
7.4	9.5	7.20	1.4	7.5	1.4	6.22	44.6	6.27	42.4
7.5	14.1	7.20	0.4	7.15	0.6	6.24	36.6	6.28	37.3
7.9	9.3	7.25	0.06	7.15	0.2	6.25	32.5	6.30	20.5

